

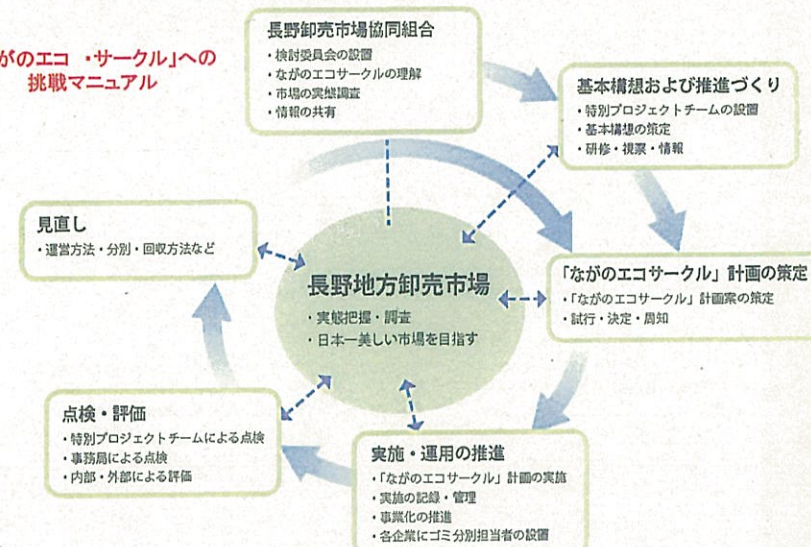
食品を大切に:市場一体となって 生ごみの減量化を始めとした 「環境型社会」に挑戦 ～日本一美しい市場を目指す～

長野地方卸売市場
長野卸売市場協同組合

長野市場「ながのエコ・サークル」活動の考え方

環境問題への取り組みに当たっては、ゴミの分別処理・回収を基本に、ゴミの減量およびリサイクルに向け、さらには市場全体のゼロエミッションへと毎年ステップ・バイ・ステップし、継続的に高めていく。

「ながのエコ・サークル」への
挑戦マニュアル



日本一美しい市場への挑戦

1. 活動の背景

長野地方卸売市場は民設民営の市場ということもあり「食品を扱っている市場としては、あまりにごみが散乱して汚い。何とかならないのか」という声が入場企業の中からありました。また、社会全体としても「循環型社会」を求める時代背景の中で、清潔で美しい市場を実現する機運が高まっておりました。そんな折に、長野市では、平成9年より「ながのエコ・サークル」活動の取り組みが始まり、この運動に長野地方卸売市場及び長野卸売市場協同組合も参加することとなりました。

2. 活動のスタート

まず『日本一美しい市場を目指す』というスローガンを掲げました。長野市場が大小様々な規模の企業が80社近く集まった集合体であり、意識の統一をはかることは、この活動の成功にとって、とても大切なことだからです。長野市場ほどの規模のグループでは、ともしれば「自分一人ぐらいなら大丈夫」とか「私だけじゃないから」といった甘えが、すべてを台無しにすることに繋がります。

『日本一美しい市場を目指す』というスローガンに向かって、当市場で働くすべての人が共通の意識を持ってごみの削減に取り組むことから始めました。

事務局として真っ先におこなった4つ取り組みについて

- ① 長野地方卸売市場から排出しているごみの量と内容の詳細を実態調査
- ② 5社が出入りしていたごみ処理回収業者を1社に絞り込む
- ③ 長野地方卸売市場独自に廃棄物分別回収のルール化
- ④ 数量把握のために大型計量器の設置

上記4つの作業が進んだ時点で、

長野市の「ながのエコ・サークル」への挑戦が始まりました。

事業内容

平成15年からの取り組み（11事業）

1. 事務用紙等使用量の抑制
2. 生ごみ減量化の促進
3. 長野市場廃棄物分別の統一化と促進
4. ゼロエミッションへの挑戦
5. 紙類分別による再生紙トイレトペーパーの還元
6. エコ・マーク商品など環境保全型商品の共同購入の促進
7. 環境問題にかかわる研修会・講演会・視察等の開催
8. 市場内一斉清掃の実施
9. 会社周辺・駐車場の清掃実施
10. エコ・サークル特別プロジェクトチームの発足
11. アイドリングストップ運動の展開

平成15年以降に始めた取り組み（7事業）

1. 公園内の清掃実施（平成18年～）
2. 市場内での「禁煙運動」の展開（平成19年～）
3. フォークリフトゼロ災害実践活動の展開（平成21年～）
4. 堆肥工場の設置（平成22年～）
5. 市場内道路の「落ち葉」（平成24年～）
6. 太陽光エネルギー利用の促進（平成25年～）
7. オリジナル再生トイレトペーパーの開発・商品化（平成27年～）

長野市の「ながのエコ・サークル」事業展開に向けての3つのポイント

①ごみ減量部門

- ・事務用紙などの使用量の抑制
- ・生ごみの減量化の促進

②リサイクル部門

- ・「長野市場廃棄物分別表」の徹底
- ・ゼロエミッションへの挑戦

③意識啓発部門

- ・環境問題に係わる、研修会・講習会・視察等の開催
- ・市場内一斉清掃の実施
- ・会社周辺・駐車場の清掃
- ・エコ・サークル特別プロジェクトチームの発足
- ・アイドリングストップ運動の展開

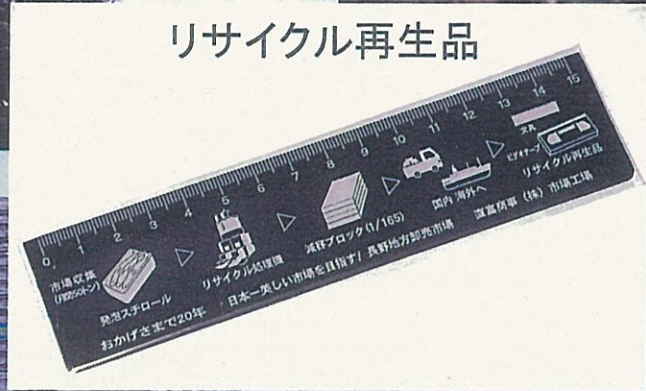
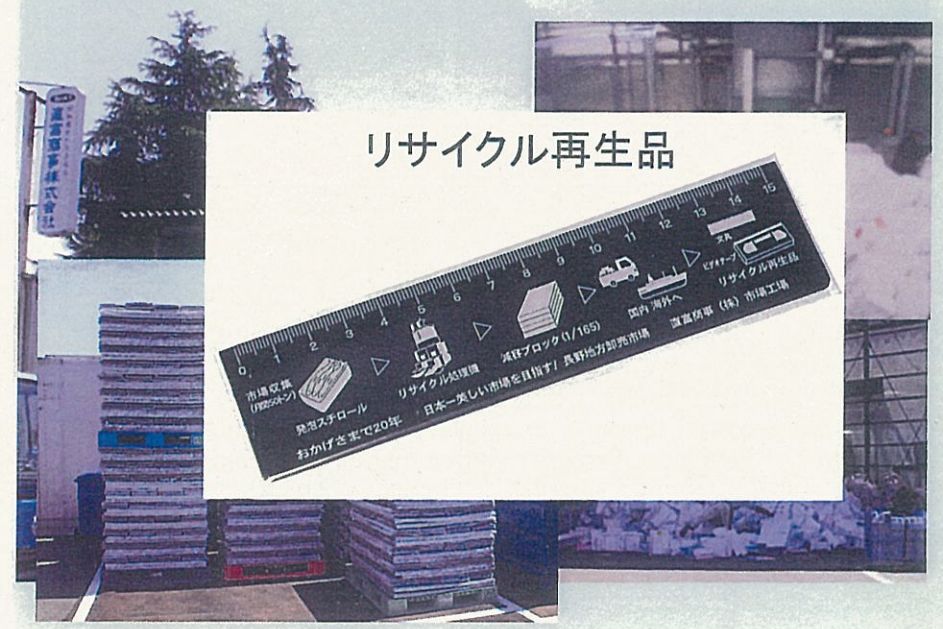
実際の取り組みにおいては、「挑戦マニュアル」に基づいて、計画→実施→評価→見直しを繰り返し、問題点を見直すことで、ステップ・バイ・ステップに改善をはかることをおこないました。

各種啓発ポスター

各企業の事務所や売り場でのごみ分別を徹底



発泡スチロールは熱処理して再資源化へ



ビン・缶・ペットボトルの分別



廃食用油の回収・処理し、燃料化へ



紙類分別・回収により オリジナル再生トイレットペーパーの商品化



国内外からの視察・見学の受け入れ (国際協力機構(JICA)や長野市内の小学生等) 小学生より市場見学のお礼



野菜くずや商品価値を失った果物から 製造した堆肥を使って土づくりをし、 ゴミ捨て場だった公園を緑豊かな公園へ



3. 活動の問題点

「ながのエコ・サークル」への参加を決めた時点では、当市場は5社のごみ処理回収業者が入っていました。そのために市場内から排出されるごみの種類や総量すら把握出来ない状況にありました。



1社に集約することによって、量の把握や分別・回収がスムーズにおこなわれるだろうと判断

1社に集約したことが今日の成果の最大の要因だと思います。

一方で当市場は協同組合であり、市場運営協議会などで決定しても、個々の企業によっては総論賛成各論反対という場合もあり、個別のルールを徹底させるのには多くの時間を要しました。

「ながのエコ・サークル」ゴールドランク認定書

ながのエコ・サークル



長野卸売市場協同組合 様

地球環境保全のために、ごみの減量とリサイクルを積極的に推進している事業所として「ながのエコ・サークル」ゴールド・ランクに認定します。

平成25年 4月23日

長野市長 鷺澤正一



▲「ながのエコ・サークル」
ゴールドランク認定ステッカー

4. 活動の成果

市場全体に意識が浸透するにしたいが、ごみの減量とリサイクル率向上が順調に推移し、その結果、平成16年12月15日に長野市より「ながのエコ・サークル」シルバーランクの認定を長野卸売市場協同組合(72社)が取得しました。

当時のリサイクル率はまだ40%に達していませんでしたが、単一事業所ではない72社の集合体として認定されたことは大きな自信となりました。

その後さらなる努力と工夫で、平成24年にはリサイクル率が80%に達し、平成25年4月23日ついに念願の「ながのエコ・サークル」**ゴールドランク認定**に至りました。「ながのエコ・サークル」に挑戦をはじめ、ちょうど10年。また、当市場開設25年にあたり、私たち長野市場はこの状態を維持し、さらなる数値向上を目指していきます。

廃棄物処理量とリサイクル率の推移

年数	可燃物排出量(焼却)	リサイクル率
平成15年	2,267,930kg	30%
平成16年	1,402,022kg	39%
平成17年	1,077,689kg	45%
平成18年	878,537kg	48%
平成19年	654,083kg	54%
平成20年	704,605kg	59%
平成21年	635,616kg	64%
平成22年	623,151kg	69%
平成23年	689,275kg	76%
平成24年	681,393kg	80%
平成25年	708,148kg	80%
平成26年	660,783kg	80%
平成27年	628,019kg	81%

ごみの種類と処理

ごみの種類	処理
可燃ごみ	長野市の清掃センターで焼却処理する
ビニール	再生プラスチック(ハンガー・バケツ・各種容器)または代替燃料として利用する
段ボール古紙新聞紙	品質によって、「段ボール」または「トイレットペーパー」に再加工される
缶ビン	各種金属の原料となる建設中丸棒として利用
ペットボトル発泡スチロール	海外への原料輸出が主で「玩具」「衣料品」等になる
魚腸骨	飼料・肥料等に利用する
生ごみ	野菜・果物・パン・肉・米飯等は肥料及び飼料になる
その他	野菜・果物は「有機堆肥」の材料として利用。不燃ごみ(廃油・金属・管球・乾電池)は燃料、水銀、ベンキ、ガラス原料として再利用する

再生品利用の促進

① 紙類分別による再生紙トイレットペーパー還元

紙類を3種類に分別することによりトイレットペーパーを還元します。

単位:個

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
トイレットペーパー	272	744	941	1,052	1,319	1,455	1,505	1,942	2,274	2,036	2,307	2,685

② エコ・マーク品(コピー用紙)共同購入

単位:ケース

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
A3	5	3	10	29	14	13	20	19	33	57	48	46
A4	53	247	316	383	272	233	491	615	843	1,281	1,248	1,294
B4	16	45	53	54	43	28	68	78	95	133	113	105
B5	35	112	127	125	106	116	185	224	249	236	206	278

③ エコ・マーク品(トイレットペーパー)共同購入

単位:ケース*

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
トイレットペーパー	5	17	16	25	29	31	49	98	202	301	335	0

*トイレットペーパー 1ケース=100個

④ オリジナル再生トイレットペーパー(長野市場ロール)

単位:ケース

	平成27年
再生トイレットペーパー	522

12

●太陽光エネルギー利用の推進

平成25年度に実験的にソーラーパネルを設置し、ノウハウを重ねた上で本格的に導入を始めており、今後も導入していく予定です。

市場の広大な敷地を考えれば、少なくとも各建物の屋根にソーラーパネルを設置して発電を行うことは、大変理にかなっており、CO₂削減にも大きく寄与できます。

●花が咲く美しい市場へ

従来はごみ捨て場となっていた公園を花と緑の公園にしようと、平成18年より市場全体で取り組み、商品価値を失った果物や野菜くずから製造した堆肥を使って圃場を作り、今では季節の花が咲く緑豊かな公園へと生まれ変わりました。

今後は、育てた花を鉢植えにして、各企業の玄関先に飾る「場内花いっぱい運動」を展開していきます。



14

取組事業のさらなる進化

●再生紙の利用拡大

日本国内にとどまらず森林の伐採が深刻な環境破壊を招いていることはご承知の通りですが、環境破壊に端を発して異常気象や、海洋資源の乱れなどは結局食物の生産に著しい影響を与えるわけで、食品を扱う市場の仕事とも直結している事象です。地球規模から見れば微小な活動ですが、これは新聞紙や段ボール、コピー用紙などのリサイクルに取り組んできたこともあって、今後もコピー用紙やトイレットペーパーの再生紙の使用拡大を図っていきます。

平成27年にオリジナルの再生トイレットペーパー「長野市場ロール」の開発・商品化ができ、52,000個以上使用しております。



13

「日本一美しい市場」の実現に向けて

「ながのエコ・サークル」ゴールドランク認定を機に、今までに増して市場一丸となって環境事業(ごみ減量・リサイクル・環境保全・啓発活動等)に積極的に取り組み、リサイクル率85%の目標に向けて、強化を図っています。

その柱は現在進めている18の事業をベースにしなが、状況変化に対応した新たな事業を加味しつつ、みんなの手で実行・実践し、「日本一美しい市場」の実現に向けて、今後も奮戦・努力していきます。

15

ご清聴ありがとうございました



長野地方卸売市場
長野卸売市場協同組合

長野市市場1番地11

TEL 026-286-2000

FAX 026-286-4100
